

2018年度電気材料安全・規格委員会 活動概況

電気材料安全・規格委員会は、電気製品に使用されるプラスチックの安全性や規格の要請に対し、当業界の意向も加味しながら適切に応える活動を行っている。参加委員はプラ工連所属の各業界団体、および専門的な知識を有する特別委員より構成されている。

主な活動内容は、隔月年6回の委員会、および電気安全に係る部品の材料登録・規格・国内外法規制・関連機関団体の会議に当該委員を派遣・出席させ、情報収集や検討を行う事。特に、規格の国内委員会や国際会議に委員を派遣し、材料の設計・評価・用途等について意見を提出し、日本の意向を規格・基準へ反映させる事、である。

これらに関して、JEITA、JET、UL Japan等の関連団体とも情報交換し相互理解を深めた。

1. CMJ 関係

耐トラッキング性試験の JIS 規格(JIS C2134)改正動向について、材料部会へ委員を派遣し情報収集を行った。対応する国際規格 IEC60112 の改訂案(CDV 文書)について、影響や妥当性の確認をした結果、大きな影響はないことを確認した。

2. JEITA 関係

今年度も JEITA との交流会（電気材料安全連絡会）を実施した。今年度は PC 技研から「PC 樹脂及び PC 技研の紹介」、春原特別委員から「IEC/TC89 動向」を報告した。JEITA 側からは「AV 機器および ITE 機器に関する安全規格動向」の紹介があり、電気製品の安全、電気用途向け材料に関する情報について意見交換を実施した。

3. IEC 関係

1) TC89（耐火性試験）

5月の国際会議（グルノーブル/仏）では、グローワイヤ試験による最終製品のクラス分け：PT60695-1-13（プロジェクト継続可否）、最終製品の炎封じ込め試験（新規提案）、グローワイヤ試験（IEC60695-2 シリーズ）の整合化に関して議論された。

10月の国際会議（メルビル/米）では、上記 PT60695-1-13 の廃止が決定された。また、ホットワイヤ試験(PT60695-2-20)は議論がようやく決着し、CDV へ進むことが合意された。グローワイヤ試験シリーズは引き続き整合化の議論中。

2) TC108（オーディオ・ビデオ、情報機器、通信技術分野における電子機器の安全性）

TC108 国内委員会および HBS 分科会に参加し、国際規格 IEC62368 シリーズについて、プラスチック関連内容の確認を継続した。

3) TC111（電気・電子機器、システムの環境規格）

TC111 で審議される内容は、プラスチック関係における重要性が近年高まっている。そのため、今年度は特に注視して情報共有を行った。

PT63031(ローハロゲン)は、4月の国際会議(ストックホルム/スウェーデン)において、本プロジェクトを正式解散することが決定した。

WG3(化学分析)では ISO/TC61/SC5(プラスチック)との JWG 化の動きがある。しかし ISO/TC61 と IEC/TC111 のスコープの整合性等に課題があり、引き続き動向をウォッチ中。

4) TC112(電気絶縁材料及びシステムの評価と認定)

IEC60216-3(耐熱特性の計算方法) および IEC60216-7(長期耐熱性促進試験)を審議中。IEC 62631-3-2(表面抵抗, 表面抵抗率)について、surface resistance 測定法(C 電極と E 電極)の RRT を実施

する予定。IEC60112(保証及び比較耐トラッキング指数)は FDIS に進むことになった。

4. UL 関係

1)STP 会議

2018 年 6 月 5 日に開催された UL94/746STP 会議(UL ノースブルック/米国)に石渡特別委員を派遣し、プラスチックに係る規格開発案件の審議に参加した。長期耐熱試験方法など世界的に関心高い案件も多く、適正な規格作りに貢献した。

2)UL ラウンドテーブル

UL Japan とのラウンドテーブルを今年度は二回開催した。プラ工連からは「FUS 時の ID 不一致削減に向けた取り組み」、「サプライチェーン全体への UL Product IQ 定着に向けた共同取り組み」を議題として取り上げ、議論した。

報告：日本プラスチック工業連盟
電気材料安全・規格委員会 委員長
井上 幸治（帝人株式会社）